

加齢性脳機能低下の機序を理解することで
健康寿命の延長をサポート

正常



遺伝子発現パターンの変化？
シナプス機能の変化？
形態変化？
神経細胞の欠落？
神経ネットワークの破壊？
行動発現様式の変化？ ...etc



認知症



食による改善

高齢社会の到来に伴って、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間、すなわち健康寿命の延伸が重要な課題となってきました。我々や動物の脳が加齢に伴って機能的にどのように変化していくのか、正確にはわかっていません。これまで我々のグループは老化促進モデル動物などを用いてシナプス機能、特に記憶・学習の基礎課程であると考えられている海馬神経細胞のシナプス可塑性の加齢性変化を詳細に検討しています。同時に、老齢動物の行動の変化などを検討することにより、認知症の起こるメカニズムを多角的に理解しようと日々研究しております。また、加齢性に低下するシナプス活動を「食」によって改善することも目標としており、脳機能改善に効果的な栄養素の探索にも取り組んでいます。最近ではさらに脳の活動を生体の外部から観察できる脳波測定を行い、脳機能の加齢性変化を検出することによって、認知機能の低下を未然に診断し、認知症の予防に役立てることを通じて豊かな高齢社会を実現していきたいと思っております。

